

江南の春（杜牧）

千里鶯啼いて緑に映ず

水村山郭酒旗の風

南朝四百八十寺

多少の楼台煙雨中

千里鶯啼緑映紅
水村山郭酒旗風
南朝四百八十寺
多少樓臺煙雨中

解説 江南地方の春を詠んだ詩。

語釈 ※江南＝長江下流の南の地方。 ※鶯＝こうらい鶯。
※緑映紅＝木々のみどり色が花の赤に映り合っている。

※水村＝川の畔の村。 ※山郭＝山裾の村。 ※酒旗＝酒屋の看板
にしているのぼり。 ※南朝＝今の南京、唐代は金陵といった。

※四百八十寺＝実数ではない。 ※多少＝多いの意。

※楼台＝高殿。ここでは寺院の塔や鐘楼などの高い建物をさす。

※煙雨＝もやのような春雨。

通釈 見渡すかぎり遠く広がる平野の、あちらからもこちらからも、鶯の声が聞こえ、木の緑が、花の紅と映じ合っている。水辺の村や山ぞいの村の酒屋の目印の旗が春風になびいている。一方、古都金陵には、南朝以来の沢山の寺院がたち並び、その楼台が春雨の申にけぶって見える。